

君と僕 互いの力生かし合う
共同参画パートナー

登別市男女共同参画情報誌

No.13

～性別や年齢の違いを超えて、男女が平等に
そして、自分らしく生きていくために～

平成28年度男女共同参画週間事業 男女共同参画社会に向けた作品（標語等）

毎年6月23日から6月29日までの1週間を男女共同参画週間としています。登別市では、男女共同参画社会について家庭や学校、職場、地域で考えるきっかけとしてもらうため、標語や習字、ポスターなどで男女共同参画社会のイメージを自由に表現した作品を募集しました。

市内の小・中・高校生から標語 264 点、習字 977 点、ポスター14 点が寄せられました。

その中から、ポスターの最優秀、優秀作品を紹介します。

最優秀賞

鷺別中学校 松辻 一葉 さん



優秀賞

鷺別中学校 杉田 麻衣 さん



♪「アンダンテ」のネーミングについて♪

音楽記号の一つにある「アンダンテ」は、「歩くくらいの速さで、ゆっくり演奏」という意味です。
男女共同参画の理解や取り組みが「じっくりと自分のペースで進むように」という期待を込め、名付けました。

登別市男女共同参画フォーラム2016

日 時：平成28年11月20日（日）13時00分～

会 場：登別市民会館

テ ー マ：女性の老後「いつまでも私らしく生きる」を考える

弁護士 小林 由紀 氏

このたびのフォーラムは、北海道女性協会の支援をいただき、「女性の老後『いつまでも私らしく生きる』を考える」をテーマに、高齢者の生活に着目し、男女共同参画の視点を通して、健康やお金に関する詐欺や誘惑などの事例を交えたお話を、弁護士の小林由紀氏からいただきました。

講演では、歳を重ねても「美しく」「明るく」「楽しく」生きていくために必要な知識や心がけ、支援制度等について分かりやすく語られ、参加者からは、消費者被害のトラブルの対処法や成年後見制度について理解が深まったと感想をいただきました。

今後とも、市民の皆様にご密着したテーマ設置を考慮し、フォーラムを開催して参ります。



平成28年度 男女共同参画社会に向けた作品表彰式

毎年6月23日から29日までの男女共同参画週間に合わせて、「習字・標語・ポスター」で男女共同参画社会のイメージを表現した作品展を市民会館で開催しています。

児童・生徒からの応募総数は、1,255点でその中から入賞作品40点を選考し11月20日開催したフォーラムにおいて表彰式を執り行いました。

表彰式では、市長より受賞者一人ひとりに、賞状が手渡され、表彰式終了後には、登別市男女共同参画社会づくり推進会議委員が「色使い」についてクイズを出題し、男の子は「青や黒」、女の子は「赤やピンク」などという固定観念が、男女の差別や区別に繋がることのないよう、性差にとらわれることなく自分らしく生きることの大切さを考えました。



《推進委員によるクイズ》



《受賞者との写真撮影》

「女性が活躍できる職場」パロマ工場の若き女性リーダー訪問！



佐嶋リーダー

1月17日、社員の8割を女性が占めている栄町にあるパロマ北海道工場（株）を訪問し、職場環境などについてインタビューしました。

まず、工場長の成田仁さんは、女性の多い職場であり全職員との個人面談を年2回は行い、職員と話しやすい環境づくりに心掛けているとのことでした。

次に、入社10年目で、プログラミングリーダーの佐嶋美香さん（28歳）は、『はんだ付け自動検査機』導入の際、プログラミングについて「自分にやらせてほしい。」と手を挙げ、製造従業員が1,500名程いる中で、2016年パロマ年間品質大賞の最優秀賞に選ばれました。

佐嶋さんは、「自分は負けず嫌いな性格なので任された仕事はやりきりたい。リーダーとして仲間をカバーする思いやりの心を大事にし、安全な家庭器具を作るため、お客様目線を大切にしながら取り組んでいます。」と仕事への誇りをにじませていました。また、仕事以外ではよさこいチームのリーダーも務めており「忙しいですが、やりがいがあります」と笑顔で応えてくださいました。男女を問わず適材適所の経営方針のもと、男女共同参画推進の中で職場環境が整っている会社だと感じました。



成田工場長

パロマの社名の由来は、スペイン語で平和の象徴である「白いハト」を意味し、平和で豊かな暮らしの願いが込められているそうです。

小学4年生向け啓発冊子「男らしく？女らしく？自分らしく！」アンケート結果

市では、児童の男女平等や男女共同参画への意識や意見を把握することを目的として、平成16年度から男女共同参画啓発冊子を配布、平成17年度からは保護者へのアンケートにもご協力をお願いしています。

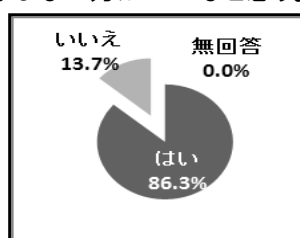
このアンケートは、身体的な特徴の違いが表れ、子育てでも男の子・女の子を区別・意識する時期である小学4年生を対象に実施しています。

アンケートに協力して頂きました4年生の皆さん、保護者の皆さんありがとうございました。

児童向け結果 ※ 回収率 68.4% (前年度回収率 48.9%)

○「女のくせに」「男のくせに」という言い方はない方がいいなと思う。

区分	平成28年度(%)	平成27年度(%)
はい	86.3	89.4
いいえ	13.7	10.6
無回答	0.0	0.0
計	100.0	100.0



ジェンダーチェック結果より

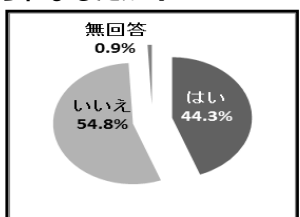
多くの児童が性差にとらわれることなくお互いの個性を認め合っていることがうかがえます。

これからも子供たちが個性を生かせる男女共同参画社会の向上に向けて取り組みを進めていきます。

保護者向け結果 ※ 回収率 56.3% (前年度回収率 38.6%)

○ご自身は「男だから」「女だから」と育てられましたか？

区分	平成28年度(%)	平成27年度(%)
はい	44.3	45.9
いいえ	54.8	51.6
無回答	0.9	2.5
計	100.0	100.0



保護者アンケート結果より

ジェンダーについて、お子さんと話された方が67.5%でした。

また、「男女共同参画社会」という言葉を聞いたことがある方が57.9%に対して「男女共同参画」というテーマに関心のある方が36%で今後も関心を高めるために情報を提供していきます。

○冊子をご覧になって、どのような感想を持たれましたか？

- ・「男だから」「女だから」ではなく、全ての人に色々な機会があれば、可能性が広がると思います。
- ・子供の個性に合わせて、その子らしい生き方ができればいいのではないかと思います。

配偶者や交際相手のことを怖いと感じていませんか？ひとりで悩まず相談してください。

配偶者やパートナーからの暴力は犯罪です。殴る、蹴るなどの身体に対する暴力だけがDVではありません。パートナーを思いどおりに支配（コントロール）しようとする態度、行動もDVです。
また、子どもの目の前で暴力は、心理的児童虐待に当たります。

女性に対する暴力根絶のためのシンボルマーク



【相談先】登別市役所 市民サービスグループ 85-2139

平成 28 年度市内女性団体等事業紹介

<のほりべつ男女平等参画懇話会・男女共同参画フォーラム>

3市合同で「何を怖れる」の上映会を10月1日に開催しました。70年代初頭に始まったウーマンリブ時代、女性運動の先駆者たちは、老年期を迎えた今も、それぞれの立場で活動しています。「リブの原点に帰ろう。ただ一人の女性も置き去りにしないで」の言葉に胸を打たれました。彼女たちの生き方から何を学び、次世代に伝えていくかを考えさせられたドキュメント映画でした。また、今回の3市実行委員会形成は、廃止された3市合同女性国内派遣事業の成果を市民団体に継承、発展する目的で開催されました。

<フラタナス・フォーラム>

今年度は、11月26日(土)に市民会館に於いて男女問わず一緒に地域社会に参加し、私達は何をすべきか、どう進んでいくべきか等を地域で活躍されている「中居力さん、千文さん」夫婦の生活を通して身近な問題をわかりやすく、ユーモアたっぷりのトークと音楽でフォーラムを開催させて頂きました。講演中も笑いがあり拍手があり、もしかして我家も「男女共同参画」やれるかも。そんな自信が皆さんの心に芽ばえた内容だったのではないのでしょうか。どうぞ沢山の方々が私共のフォーラムに耳を傾けてみて下さい。

<登別市町内会女性役員研修会・わがまちの魅力再発見>

市連合町内会は、町内会女性役員等を対象に昨年度に引き続き『市内視察研修会』を昨年11月8日(火)に実施しました。
本研修会は、昨年的好评から107名の参加がありました。
今回は、「日本の重要湿地 500」に選定(平成13年)された「キウシト湿原」や新しく生まれ変わった「登別漁港」など市内の自然環境や景勝地を巡る内容でした。また、昼食交流では、観光協会唐神会長より観光の状況について講話を頂き、オール北海道で観光客の「おもてなし」をお願いしたいなど、参加者との意見交換も行いました。
雨天のため行程の一部に変更がありましたが、参加者からは、「意外と知らないことが多いわね」「もっと登別の魅力を・・・！」など、女性のパワーを期待する事業となったと考えています。

女性フラザ祭2016へ参加して

平成28年11月10日、札幌市の北海道女性プラザで開催されました『女性プラザ祭2016』へ、登別市男女共同参画社会づくり推進会議委員の方々と一緒に参加致しました。
テーマは、「イキメン」仕事だけではなく、地域でイキイキ活動する男性3人のお話でした。現役時代に職場でコーヒーを落としているうちに、いつの間にか凝りだして、「地域にほっとする居場所を・・・」と喫茶店を開店し短時間営業ながら誰でもが、プラッと立ち寄れる場所を作りました。その中で活動する男性の嬉々とした様子を何ものにも変え難く楽しく想像してまいりました。

編集後記:子育て世代女性の社会進出や活躍が増進する一方で、保育園の待機児童問題や男女共に職場の長期間労働等、平等に社会で活躍するには、まだ様々な課題を整備する必要があります。充実した男女共同参画社会に向けて、国や自治体が施策を示された事をまずは、私達が共有理解し、それぞれの立場で出来る事から取り組んで行くことが一歩前進に繋がると感じます。この「アンダンテ」が皆様の充実した男女共同参画社会実現への意識啓発に繋がる事を願います。

問い合わせ先

登別市市民生活部市民サービスグループ 〒059-8701 登別市中央町6丁目11番地
TEL: 0143(85)2139 FAX: 0143(85)7674 E-mail: simin_danjyo@city.noboribetsu.lg.jp
登別市男女共同参画情報誌「アンダンテ」第13号 発行日: 平成29年3月
企画・編集: 登別市男女共同参画社会づくり推進会議
アンダンテ企画・編集委員一同 登別市ホームページ <http://www.city.noboribetsu.lg.jp>